

大阪長屋における相隣関係の特性

-大阪長屋に関する研究(その3)-

正会員 ○ 角田優子*
同 林 晃輝**
同 横山俊祐***
同 徳尾野徹****

大阪長屋 相隣関係 近隣関係
共同性 都市居住

1. 研究の背景と目的

大阪長屋は、明治42年に公布された大阪府建築取締規則、大正時代末期から行われた土地区画整理に基づいて、大正から昭和初期にかけて大量に供給された都市居住形態である。現在、大量供給される均質的な計画とは対照的に、共同性や接地性、地域性、格式性といった都市住宅としての高い性能・質を有し、80年に渡って質の高い居住環境を形成してきた。特に、阪南地区は大正13年からの土地区画整理事業によって、幅60間×19.5間の街区が計画的に整備されている。

本研究では、大正期に計画された集合住宅地が、狭小性や壁の共有などの形態特性のなかで80年に渡り良好な集住環境を持続してきてきたことに着目し、その相隣関係の実態と特性を明らかにすることを目的とする。

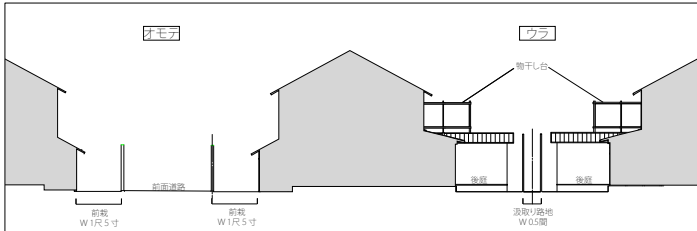
2. 研究の方法

大阪市阿倍野区阪南地区内に現存する長屋を27件を任意に抽出し、居住者に対して住まい方と近隣関係、およびその経年変化に関するヒアリング調査をおこなった。

3. 大阪長屋の街区空間構成

前述の2つの規則に則った計画のため、地区内ではほぼ規則的に街区が整備され、規則的に長屋が建並ぶ。長屋オモテの構成としては、約2間の前面道路から建物は1尺5寸セットバックし前庭として設えられる。境界には、生垣や塀が設けられているものもみられる。ウラには水洗化以前の汲取り用に幅0.5間の背割り路地が通っている。これは両側の長屋から敷地を出し合って成立しており、両端に設けられた出入り扉の鍵の管理はその長屋住人が自主的に行っている。また、二階には、路地に面して日当たりの方角に関係なく対面に物干し台が設けられている。(図1)

図1 大阪長屋の断面構成



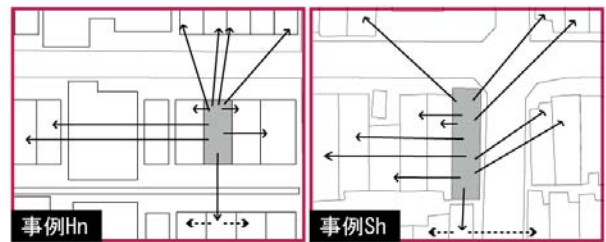
4. オモテにおける相隣関係

長屋における立ち話をする付き合い範囲は、主に向かい3軒、横は長屋単位であり(図2)、前面道路を中心

に豊かな近隣関係が形成されている。立ち話はもちろんのこと、自宅前、場合によっては両隣まで毎日掃除することや、住人の居場所となっていることから領有化がうかがえる。しかしお裾分け程度の付き合いとなると、少し離れていても仲のよい人となる。接客においては、話の内容や付き合いの程度から、道路→前庭→玄関という段階性がみられる。前庭や門塀があることで各戸の格式が高まり、高密度住というよりも、程よい距離をおいた付き合いをしていることがわかる。

5. ウラにおける相隣関係

ウラにおけるつきあいは、主に対面する一軒のみであるが、直接聞かなくてもそのお隣に聞けば分かるから通りのことは全てわかる(表1)というように対面する一軒を介して横方向に関係が派生していく。(図2)具体的には、方角に関係なく路地に面して対面し視線が交差する



上図2: 立ち話をする家の分布 下表1: 相隣関係に関する代表

オモテにおける相隣関係
【前面道路での付き合い】 相手とか内容にもよるし、挨拶だけ、道路、前庭、玄関までの時もある。道路に長椅子を持ち出して、将棋したり、夕涼みしたり、通る人も顔見知りばかりだったから。おばさんが3、4人集まったら、葉っぱ集めてたき火しよう!みたいな感じになった 子どもが通りで遊んでても、隣近所の親が見るから見張りみたい機能の場所だったと思います
【前面道路の領有化】 この路地は長屋の占有空間 自分の前はもちろん掃除する。ゴミが落ちてたら拾う。みんなで使うものという意識 向いの人か、植木の面倒をみてくれて、助かります 自分の前と両隣くらいはする。それがマナー
ウラにおける相隣関係
【物干し台を介した裏との付き合い】 雨ふったら、「雨ですよ」とか大声で言ったりとか 物干しもタイミングが一緒の家あるわな。それが見えるというのは長屋。そこでいろんな話したり こないだも、雨ふってきたから、裏の家に雨ふってきたって電話したけど 洗濯もんが出ていっただけで、ああ元気がなあ確認できた
【路地越しに対面する物干し台】 でも今は、三階建てになって見えなくなった 家が長屋から三階建てに変わったから 向かいのおばちゃんに会うと、向うは北向きやからうらやましいと言われた 作りが一緒だから、話はよくするんじゃないですかね
【汲取り路地での付き合い】 今度何曜日に来ますって、お隣とかから回ってくるわけよ。家において、開けなあかんから 汲取りやさん帰った跡も、流さなあかんでしょ。みんな出てきてね、いてはらへんとは隣が一緒に 流しとっただけよ、とかね 掃除をする。各自が自主的に掃除をする時もあれば、声を掛け合って「やるかあ?」と言ってする時もある。近所の若い人によつてもらったり。
【ウラへ連鎖するつながり】 わざわざ裏まで行かなくても、会話できるし、新しく来た人もどんな人かわかる 誰んどこに何があったとかは、自分で聞かなくても、その家のお隣さんに聞けばいいし、そうすると通りの家のは全て一通りわかるわね。

は、方角に関係なく路地に面して対面し視線が交差する物干し台では、あいさつや世間話に加え、雨が降り出した時に知らせ合うなどの相互扶助、あるいは会話をしなくとも裏側など周囲の居住者の顔を知ることができることから防犯面の安心感にもつながっている。また、汲取りが廻っていた当時には、日程の連絡や汲取り後の清掃を協同するなど、汲取り路地がウラ同士の共同性を生んでいる。現在でも、鍵管理や清掃などが継承されている。

6. 長屋単位の相隣関係

壁を共有した棟続きという意識は、一体感を生む。かつては一棟の長屋単位を『隣組』とよび、慶弔の際の集金や行事の役割分担などをまとめて行っていた。現在の町内会制度となっても、基本的に隣組の範囲を継承している。また、生活音に対しては、気になるとテレビ音量を上げることや各自ルールを決めて近隣に配慮するなどの自律的な規範や、逆に音が聞こえないと心配になるなどの相互配慮がみられる。増改修時には、工事前に声を掛け合うことや屋根修理の際の昔からの規範が存在すること、隣組の存在などからも一棟で集まって住み続けるための自律的な規範や相互配慮の意識がうかがえる。

7. 冠婚葬祭時における相隣関係

狭小な長屋という特性上、人が多く集まる際には特徴的な空間の使い方がみられる。現在では珍しいが、葬儀の際に向かいや両隣の座敷を一体的に使用し、長屋単位で相互扶助しながら行われていた実態が明らかとなった。空間利用の実態としては、向う三軒両隣が、①僧侶の控室、②炊出し用の台所および会食場所、③会場となる家

の家財道具の仮置き場を受け持つ。受付は、基本的に会場の前庭空間で行うが、人数が多い場合には①②③以外の長屋の玄関でおこなうこともあった。会場内部では、2階が親族の控室、手前／奥に関係なく最も広い1階座敷の奥に祭壇をしつらえ、狭小のため座敷にて参列できるのは基本的に親族のみであった。そのため焼香台は玄関となり、一般の参列者は玄関から前庭・前面道路に及んだという。近年の事例では、前面道路にスピーカーを設け座敷内部の音を流す、喪主の挨拶は前面道路を一時通行止めにしてマイクでおこなうなど、内外および長屋1棟、前面道路までもを一体活用していた。(図3、4)

相互扶助の実態としては、長屋単位のコミュニティ『隣組』が主となっていた。女性達は②炊出し担当の住戸に集まり会食を受け持ち、また男性達は、提灯おこしや帳場など隣組で役割分担を話し合い、長屋全体で運営していた。(表2)

1戸の枠を超え相互に連携することで、一般住宅で行う儀式を実現した都市型の事例であるといえる。

8. まとめ

向う三軒、棟つづき、背中という長屋の相隣関係は、一棟に集まって住む一体感を中心に、オモテとウラの特徴的な空間を介して良好な関係を形成している実態が明らかとなった。良好な関係を築くことで狭小性や高密度性などの形態を克服し、長年に渡り持続してきたことは都市集住へ示唆を与える。

表2：相隣関係に関する代表意見

長屋単位における相隣関係
【棟続きが生む一体感】 やっぱり棟続きやから、というのはある
【隣組】 隣組とて、棟続きで協力し合うために昔からある どこそこさんのトコお祝いやとなると、隣組でご祝儀を集めたり 今の町会の班も隣組の範囲と同じやからね
【生活音への相互配慮】 マナーとして襖は静かに閉めなさいとしつけられていた 音が気になる時は、テレビの音量を大きくしたり 音が全然しないと逆に大丈夫か心配になる 声は聞こえても、話の内容はわからない 夜や早朝は大きな音を出さないように気を遣うし、隣も気遣って来てると思う。お互い様。
【増改築時の配慮】 屋根瓦の葺替えの時は自分トコと両側2枚分まで昔からのルール。すると雨漏りしても文句ない 工事前には、両側はもちろんお向かいには声かけます。 通りへの挨拶は、業者さんがしてくれました お隣さんが挨拶してきたから、ついでにウチもやってもらった
大阪長屋の相隣関係に対する意識
母からは、向かい3軒、背中、両隣と教えられた ぼつんと長屋があるんじゃないわ、みんな長屋や。だからみんなまで住んでるって意識 ドラマに出てくるようなことはないわね。みんなええかつこし、やからね。 向うが知らん顔してたら、こつちも知らん顔しとかなな 誰んどこに何があったとかは、自分で聞かなくても、その家のお隣さんに聞けばいいし、そうすると通りの家のは全て一通りわかるわね。
冠婚葬祭時における相隣関係
男らは、提灯おこしとかの担当を隣組で割り振ってきめて、みんなて話し合って 道路でマイクつこうて、やったよ。車も通られへん 中は、親族しか入れへん。道路へ聞こえるようにスピーカーつけて流してたわ 庭で靴はいてはるから(焼香台を)玄関にしつらえてね お隣が料理を受け持つ。 班のお母さん方が全員集まって、お寿司やら、おかずやらを協力して作っていた。 お坊さんが1階に来て。1階の普段の荷物は固めるかお向かいに預けておいて、 みんなが座れる場所を作って。親戚の人も、近所の人もみんな1階に来て。



上図3：
葬儀時における
内部空間のしつらえ

左図4：
葬儀時における
相隣関係

*大阪市立大学大学院工学研究科 後期博士課程
**MID 都市開発
***大阪市立大学大学院工学研究科 教授・工博
****大阪市立大学大学院工学研究科 講師・工博

*Doctor Course, Graduate School of Engineering, Osaka City University.
**MID Urban Development
***Prof., Graduate School of Engineering, Osaka City University, Dr. Eng.
****Lecturer, Graduate School of Engineering, Osaka City University, Lec. Eng.